

1927
郎著

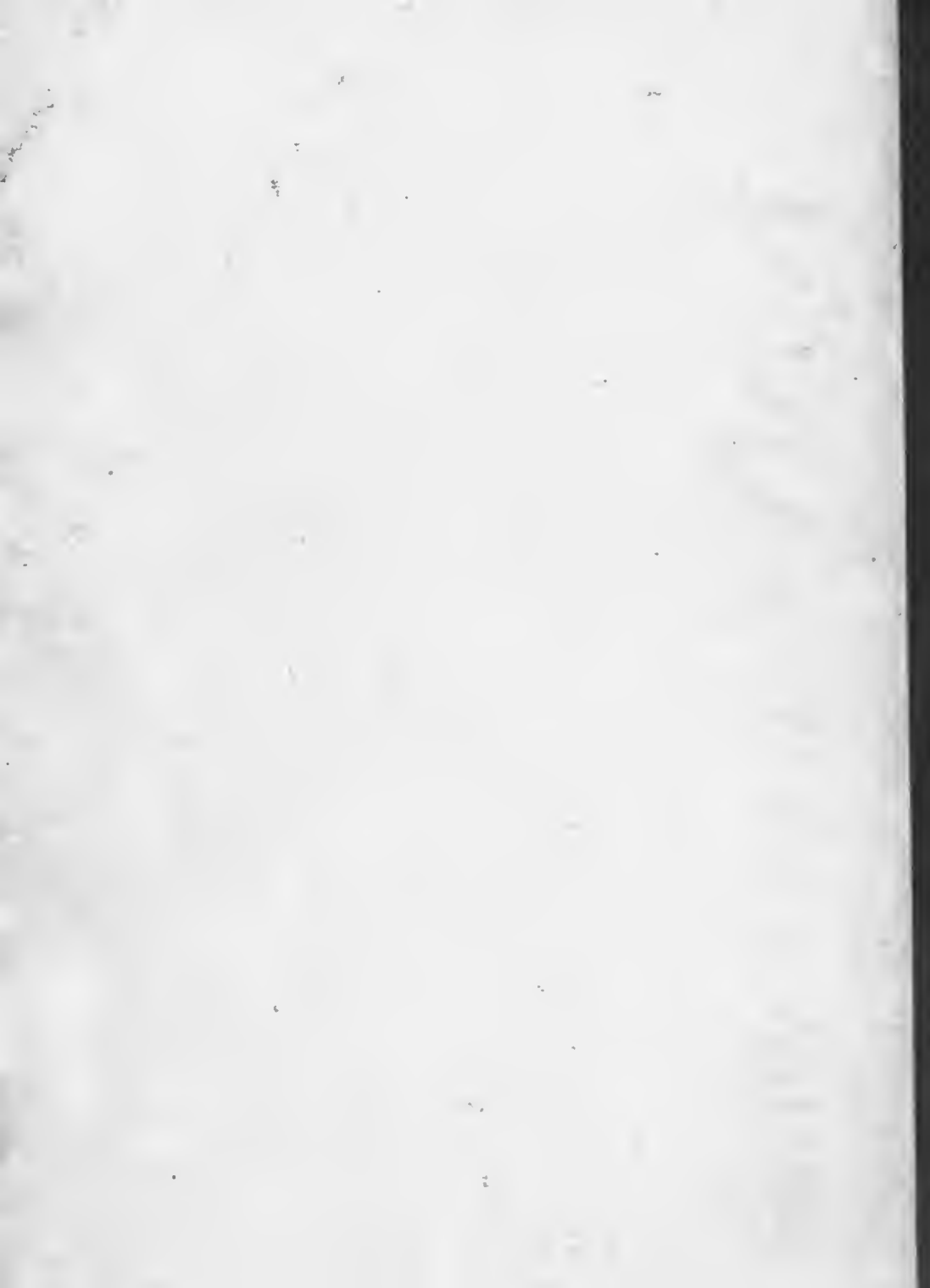
十錢

森田書房版

ヒットラーの

新外交政策

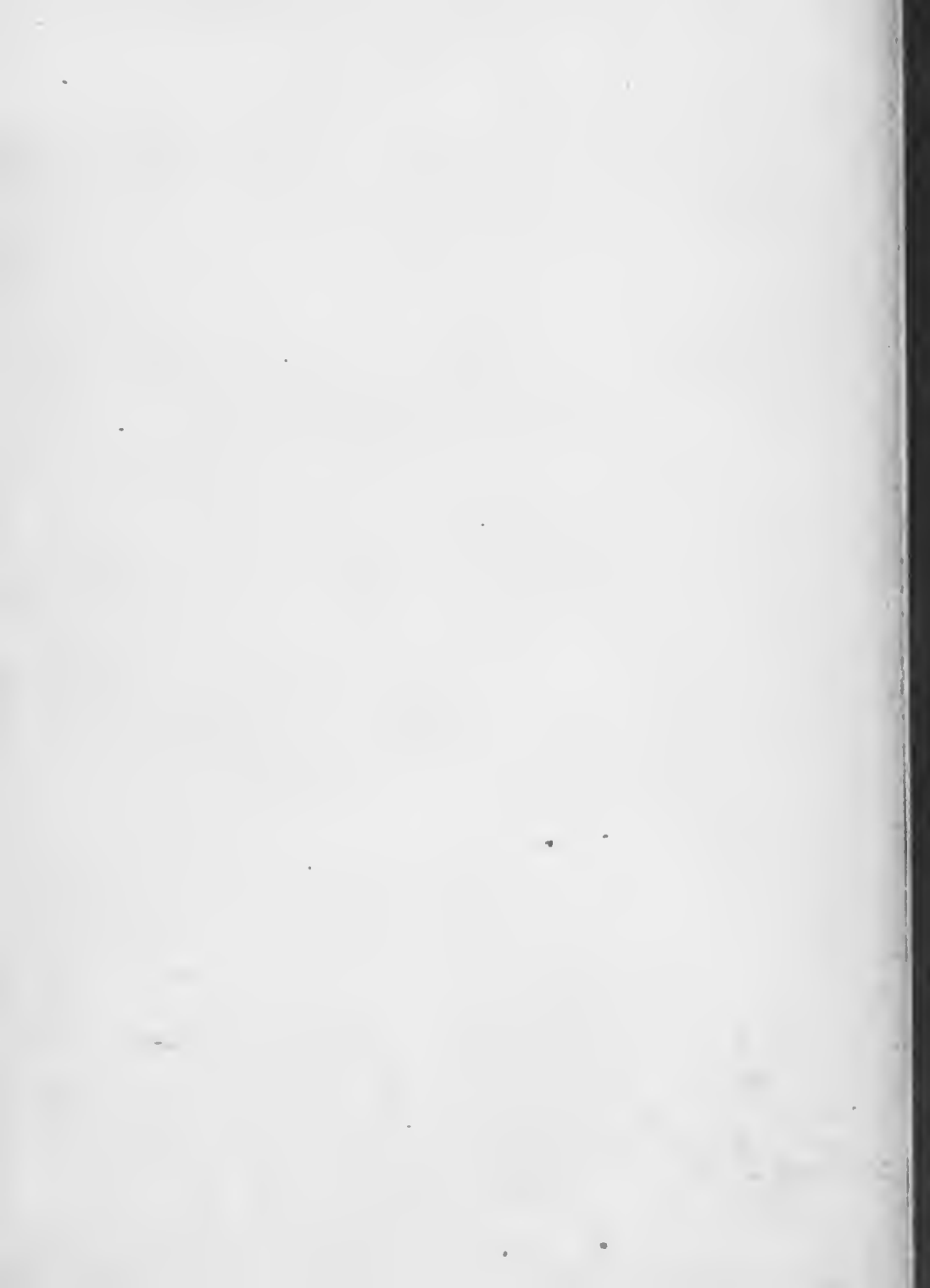
ナチスドイツの全貌



清川逸郎著

ヒットラーの新外交政策

森田書房版



は し が き

ヒットラーは世界を動かしてゐる。

そして彼の外交政策こそは、世界舞臺の上に廿世紀の人類を躍らしてゐる所の脚本である。

ヴェルサイユ平和條約諸條項及びロカルノ條約の廢棄。聯盟脫退。ラインへの進軍。ダンチヒ自由市の自立。メーメル。バルチック沿岸制覇。ウクライナ。バルカン。ドナウ。スペインの革命。ゲシユタボ。打倒ボルシェヴィズム宣戰！

歐洲の空は騒然として風雲急。

この間をヒットラーの筋書は、獨伊埃洪希西等の「防共十字軍」の結成を終へて、いまや「日獨協定」の條まで來てソ聯を包圍した。

だが残る獨伊・獨英の利害衝突の問題を如何取扱ふかそしてヒットラーは、最後に何を爲さうと言ふのか？

昭和十一年十二月

24

目次

- 一、世界改造を叫ぶヒットラー……………(一)
- ◇歐洲の爆彈ヒットラーとは何んな男か
- ◇ヴェルサイユ條約の濟崩しの廢棄
- ◇聯盟脫退
- ◇ダニユブ河國際河川條項廢棄
- ◇ダンチヒ奪還
- 二、民族的統一國家の建設……………(二六)
- 三、宣戰、ボルシエヴィズム打倒！……………(二九)
- 四、「反共」十字軍……………(三二)
- 五、實益上から見た歐洲葛藤の内幕……………(三三)

六、宿命的ユダヤ排撃……………(二六)

七、新天地を求める膨張の獨逸……………(三二)

◇ウクライナ進撃と一連托生の隣接諸國

◇バルチック海沿岸制覇

八、ドナウ及びバルカンに於て利害相反……………(三五)

する伊太利との關係をどうするか……………(三八)

九、東歐政策と獨蘇國境の嵐……………(三六)

一〇、亞細亞に對するヒットラーの方針と……………(四二)

「日獨協定」の成立……………(四三)

ヒットラーの 新外交政策

清川逸郎

一、世界改造を叫ぶヒットラー

「ハイル・ハイル・ヒットラー！」

これは、嘗ては、西部戦線の塹壕の中に、息を殺してうづくまつてゐた所の無名むめいの一出征兵士に對して、今日捧げる「われらが總統ヒットラー」の獨逸國民の叫びである。

「ヒットラーは神がドイツに下し給ふた救世主すうせいしゅである。」と説く學校教師がある。

「ヒットラーは現代の奇蹟であると同時に神祕である。」と云ふ政客がある。

「ヒットラーを理性で愛さうとするなかれ、感情と心情で敬愛せよ」と、宣傳相ゲツベルスは叫ぶのである。

こうしてヒットラーは、「強いもの」から次第に「神聖なる者」そうして神聖にして絶對なるものとなりつゝあるのである。

そして彼の信念及びその生活は、實にそれに相應はしい人格となりつゝあるのである。

彼は「祖國奪還」を叫んで混亂の獨逸に起ち上つて以來、たゞ祖國の爲にのみ身命を捧げて闘つて來た。彼は「命がけ」でやつて來た男だ。彼は一に、愛國救國の火の玉となつて驍進して來た。そして彼の魂が全獨逸國民の癡痺せる魂に鳴りひゞいて、そしてそれを奮ひ起たして來たのである。

彼の日常生活もたゞその爲にのみ動かされてゐる。彼は身を持すること甚だ嚴、一切の私的快樂を顧みず、酒も煙草も肉類すらも口にせず、心身を清淨に保ちつゝ全魂をうちこんで日夜精進をつゞけてゐる。

彼は、仕事場に寢起きして政務に没頭してゐる。

こゝにこそ全獨逸人の信望がつかがれてゐる。まさに彼こそ現代獨逸の柱である。

彼の叫びは、獨逸の叫びであり、彼の司令は獨逸の血液であり、彼の神經は則ち獨逸の行動である。即ちヒットラーは獨逸國そのものであるとも云ひ得る。

彼の外交政策こそは、まさに全獨逸の動きであり、それが獨逸のみに留まらないうで全歐洲をひきづり、全世界に波及する所の爆彈となつて來た。

獨逸が世界に誇るものに「三大ドイツ偉人」といふのがある。プロシヤ王國を興したフリードリッヒ大王、ドイツ聯邦帝國を建設した大宰相ビスマルク、そしてゲルマン民族の血の統一を叫んで「第三帝國」建設の礎石をうちたてた「われらが總統ヒットラー」。

だが然し乍ら、内的には獨逸の魂として信仰の中心にまでなつてしまつた精神生命の點に於てまた外的には、ぐん／＼と世界をひきづつてゆく所の重大な役割を演じつゝあるその偉力に於てヒットラー總統こそは、まさに「三大ドイツ偉人」のうちの最高位に登らうとしてゐるのである。歐洲政局の動向の震源地をなしてゐるかの如き觀を呈してゐるヒットラーの外交政策を全面的に識ることは、また同時に世界趨勢の將來を展望することにもなる。

◇ヴェルサイユ條約の濟崩しの廢棄

歐洲大戰の終結は、獨逸民衆の頭上に大鐵鎚を打下した。世界大戰は確かに古今未曾有の大禍亂であり、超數學的大損害を出してしまつた。がこの責任を悉く獨逸になすりつけて縛り上げてしまつたのがヴェルサイユ條約であつた。

米大統領ウィルソンは「戦争の責任はカイゼルにあつて獨逸國民には無い」と宣言しておきながら、ヴェルサイユ條約は、悉くその責任を獨逸民衆にのみ負はせたのだ。民衆は苦悶した。奴隷の如くに働いた。この時から獨逸の外交方針の運命は決定したのである。

皆済するまで最少四十八年、實は百年以上もかゝるだらうとの算定の下に計算せられた賠償金が、千三百億金マルクとなつて獨逸民衆を襲つた。不可能な賠償金支拂の嚴命が、戰敗國代表の票決参加を許さない一方的議決によつて、パリイ媾和會議に於て發せられた。獨逸は働き盛りの人間も目星しい資産もすつかり蕩盡してしまつた。植民地は悉く英佛に捲き上げられ、ドイツの寶庫とも謂ふべきアルサス・ローレン地方も舊ポーランド、シユレチャ地方も奪ひとられてしまつた。

肉はむしられ、血は吸はれ、手足は斬りとられて胴體の骨と筋と皮だけが残つた。この廢朽物に近いヒヨロ／＼の體から、なほ毎年二千五百萬トンの石炭を佛白その佛の國に献上すること、

千六百トン以上の船舶全部と別に新造船二千萬トンを建造して献上すること、汽車は機關車五千臺貨車五萬臺を献上すること、その上に千三百億金マルクを償還せらねばならないのだ……といふこの誇大妄想狂の夢の様な案をお手盛りして、獨逸の出席せざる會議で決議してこれを否認無しに獨逸につきつけたのである。

しかもなほその上に、ヴェルサイユ條約十四ヶ條中最も大切な民族自決主義を獨逸には全く拒否して、軍備縮少の約言を唯に獨逸のみに強要した。人口四千萬の佛國が植民地軍を合せて六十萬の常備軍を有するのに、人口六千三百萬の獨逸の常備軍は、十萬五千に限られた。

國際正義も、人道主義も何もありはしない。かゝる出鱈目の無法強壓が平和會議の虛名の下に爲されたが、無力なる獨逸は涙をのんで英佛の餌食とならねばならなかつた。

それは、獨逸の凡ゆる農民と勞働者と商人とに對して、自分の家屋と工場と商店とを、いや將來の子や孫までも聯合國の奴隷たらしめることを約束するものだ。

それは、八時間勞働のうち六時間は聯合國の爲に働きやつと二時間で自分達の生活を支へると言ふ事だ、古代羅馬の征服者と雖、これ以上慘酷に征服地を虐げたことはない！

獨逸の國民はかくして怒り心頭に發した。しかし誰一人、この憤怒を代表して大聲に吶喊するも

のはなかつた。新聞はたゞ泣言なみことを並べ、空しく吼えるだけだつた。大政黨もまた無力むじくなる慷慨を示すだけだつた。

この時だ。この時に、熱血の青年隊ナチスをひつさげて起つたのが、ヒットラーである。

再起不可能さいきふかひんであらうとまで思はれた獨逸は、蟄伏十餘年、黒世の旗の下に雄々むさしく起ち上つたツム・ライン！ ツム・ドイツチエライン！ の舊國家が獨逸の悉くの家から高唱され褐色の戎衣もいかめしいナチス黨員の軍靴の足音が、獨逸勃興の脈搏の如くに都會に農村に横溢するやうになつた。曾つては戰敗國せんぱいこくとして二等國以下にげの扱ひを受けた獨逸の臥薪嘗膽の結果は、いつの間にか歐洲の最脅威國として再誕したのである。英佛馴れ合ひで獨逸にはめ込んだヴェルサイユ條約のギブスを脱ぎ捨て、二等國としての屈辱的境地から躍り出た。ヴェルサイユ條約でおしつけた軍備制限は、世界平和の前提ぜんてい的段階たんぱうであると思惟した故に、獨逸はそれを甘受かんじゆしたのに、現勢は世界大戰前よりもつと猛烈な軍備時代となつて、獨逸を圍繞する國々は物々しく武裝してしまつてゐる。約束無視も甚しい。馬鹿を見たのは獨逸である。十餘年前の戰敗直後の衰憊期ならいざしらず、歐洲の大國として甦生した上からは、こんな不合理ふがひを甘々と押し頂くわけには行かない。獨逸の願望はヴェルサイユ條約の改訂だ。弱つた隙に乗じて押しつけられた屈辱條約の

清算だ。

されば一九三二年一般國際軍縮會議が開かれるや、獨逸はナドルコー代表を送つて、條約改訂の最大要目たる軍備平等權を力説せしめたが、現狀維持をもつて腹鼓をうつてゐる英佛がこれを聞入れる筈はなく、結局翌三三年十月十四日軍縮會議幹部會で、英外相サイモンは獨逸案を反撃し、佛國及びその與國もこれに賛成し、獨逸は孤立に陥つた。

獨逸代表ラインパーベンは必死に軍備平等の即時實現を絶叫したが、徒らに英國その他の代表の冷笑を買ふばかりであつた。屈辱の延長を獨逸の上に適用する爲に、あらゆる手段が現狀維持派によつて企てられ、獨逸はさんさん苛め抜かれて、遂に聯盟を脱退せねばならなくなつた。

屈辱的條約から脱れんとする全獨逸國民の血の出る叫びがあがつた。

「賠償奴隷だ！ 骨の髄までも奴隷だ！。あの亞佛利加の太陽に曝されたる植民地兵のやうに、鞭うたれ。輕蔑され、嘲笑されて、乞食のやうに貧しく、精神的にも去勢されて、音樂も、藝術も、もはや我々獨逸人を慰めてはくれなくなるのか！」

痛烈なヒットラーのむせび聲であつた。

一般國際軍縮會議において、獨逸が英國の奸策にかゝつて苦しめられてゐる最中、即ち一九三

三年五月十七日に獨逸國會に於てヒットラーは、有名な所謂「彈爆演說」を叩きつけてゐた。

今や歐洲の現狀は如何なる戰爭を以てするも改善不可能の狀態にある。戰債問題に關しては獨逸は忠實に中正をもつて不當なる要求を履行し來つた。ヴェルサイユ條約は、政治的國境と實際的國境とを合致せしめることに失敗したものである。しかして同條約は、獨逸のみが大戦に對する罪を負ふべき國なりと大國の先入主觀をもつて起草されたもので、國際聯盟は弱小に對して何等眞實なる援助を與へてゐない。國聯協定は、均等權を有する國家間に於て締結される場合に於て初めてその眞價を有するものである。新しき戰爭の勃發は新しき犠牲を拂ふこととなり、かくて新しき不安を世界に招來する事となり、遂に歐洲は共產主義によつて混亂狀態に陥り、滅亡の危機に臨むこととなるであらう。

ヴェルサイユ條約の改訂は、ひとり獨逸がこれが必要として居るばかりでなく、他國自身もその改訂の必要を認めてゐるものである。過去十四年間世界は劃然として勝利者と敗北者とに別れ來り、かくて世界の不安は増大するに至つた。

ヴェルサイユ條約に於ては、獨逸が他國に對して軍縮を要求する權利を有する事が認められてゐる。ナチスの突撃隊は、軍事的團體ではない。しかして獨逸がヴェルサイユ條約を忠實に履行し

てゐないとの説は根據無きものである。ドイツは如何なる不侵略條約にも參加する用意あるものである。しかしながらドイツは、二等國として、屈辱に甘んじて國際聯盟に留まることを潔しとしない。獨逸は如何なる狀態の下においても、獨逸にとつて無權能を意味する協定に調印することは不可能である。獨逸に對する如何なる威嚇も、獨逸政府並びに國民を屈伏せしめることは出來ない。

ドイツは大多數の投票によつて、獨逸の權利を剝奪せんとするが如き如何なる會議よりも脱退せんとするものである。」

現状を打破せんとする獨逸國民の總意が英佛によつて龍斷される國際聯盟機構に勇敢に衝突して行つた。年々七十萬づゝの人口膨脹を有する興隆力は、猫額の獨逸の山野では收容し切れない。伸びんとする力、起たんとする力を、無理じひに壓へつけるのが聯盟だ。聯盟は英佛露等の滿腹國家のインチキな擬裝網であり、それ等の暴行に使用する絞殺器だ。空腹獨逸は、日本同様に自由を求めてこれから飛び出した。日獨の脱退で、聯盟は完全に英佛の傀儡となつたが、その組織内で現在も苛めつけられてゐるのが、日獨と同じく空腹國家の伊太利である。

現状維持を看板とすることによつて儲けてゐる手合ひの合資會社が聯盟であるから、その會社

内で現状打破を標榜する者があれば、これは當然異分子で、寄つてたかつて苛めにかゝる。

日本、獨逸、伊太利悉くが國狹く、資源少く民多く、伸びよう／＼とする新興の力に滿ち溢れてゐる。これが大體英佛の氣に入らぬ原因だ。しかし勃興する自然の力はどうにも仕様がな。これを仕様のある様にするためには、滿腹國家が有り餘る領土と資源とを割讓するか、さうでなければ、空腹國の自由意志を或る程度まで認めなければ解決できない。この根本方程式を無視して、滿腹國同様の規程を適用しようとして、それに反對すれば苛めにかゝるから、世界には平和が來ない。伊太利も伸びねば自滅するので、エチオピアにのし出した。のし出した當人を責める前に、まづ第一に鼓を鳴らして問責せねばならないのが、さうせしめてゆの所の聯盟及び現状維持國の斷斷的領土獨占の支配現狀である。

◇聯盟退

ヒットラー獨裁政權の確立が、歐羅巴の政界に與へた一番大きな衝動は、彼の呼號する強烈な國家主義の恐怖と惹いてはその爲に、第二の歐羅巴戦争が起りはしないかといふ危惧とであつた。列強は固唾を呑んで、ヒットラー政府の態度を敵守つた。

この列國監視れつこくかんしの中を獨逸は堂々と聯盟を脱退してしまつたのだつた。

獨逸が聯盟の軍縮會議に提出した軍備平等の要求は、何の國も正面から反對できないくらい、正々堂々たるものであつた。

獨逸が進出し、それだけ歐羅巴の國際政治こくさいせいじには現状の打開が始まつたのである。

聯盟脱退を決定した日、宰相ヒットラーは自らラヂオによつて全世界に宣言した。

「歴代の獨逸内閣は、威嚴ある軍備平等權が當然許與されるものと信じて國際聯盟に加入し、軍縮會議さんしゅくかいぎに参加したのである。しかるにその期待は、完全に裏切られた。獨逸は從來以上に軍縮の用意あるに係らず、他の國々は、平和條約に規定した約束やそくすら履行しようとしなない。一九三二年十二月の軍縮會議さんしゅくかいぎに於ては、獨逸に對して軍備平等權を認める旨の約束やそくをしておきながら今に至つてそれを承認し難いとは何事であるか。獨逸政府は、これを以て獨逸國民に對する不當且つ不名譽極まる差別待遇と見做す。獨逸は二等國に墮落させられてまで、かゝる會議に参加する必要はないのだ。それは獨逸國家の面目めんぼくにかけても出來ない。予は獨逸の宰相として、またナチスの首領として宣言する。世界の平和は、征服者、被征服者の觀念を解消して、始めて産しうるものなることを。」

凍たるこの一言！

征服者と被征服者との關係によつて彩られたる現在の世界地圖、これを描き替へねばならないと言ふのだ。

英佛米等少數の征服者によつて支配せられる現代の世界を、膨脹しゆく民族國家に對する大地の開放の爲に、不自然に整調せんとする、世界改造の雄叫びをすら、發してゐるのだ。

◇ダニユア河國際河川條項廢棄

現状維持派に對する總攻撃は更にヴェルサイユ體制に對する空文化となつて現はれた。

ドイツ政府は、ヴェルサイユ條約中、ダニユア河、エルベ河等の國際河川たることを規定した條約を廢棄する旨を關係各國（英、佛、伊、白、チエコスロバキヤ、ポーランド、デンマーク、スエーデン、リスマニア、オーストリア、ルーマニア、ユーゴスラヴィア、オランダ、ハンガリー）に通告した。

ドイツ政府は、國際河川條項廢棄の通告において勢頭先づライン、エルベ、オーデル、ダニユア河等に關する國際委員會並にキール運河に關するヴェルサイユ條約の規定がドイツの主權と相

容れぬ點を協調し、かつ右各河川及び運河に關する現行制度の不都合を指摘した後、次の如くに述べてゐる。

「ドイツ政府は主權回復の見地よりドイツの水域に關するヴェルサイユ條約並にこれに基き決定された現行諸取決めに嚴禁する。よつてドイツ政府は國際河川委員會に對する協力も最早や停止し、代表者の引揚げを行ふ。一方ドイツ政府は、これら河川に對する今後の方針をこゝに闡明する。即ちドイツの船舶と外國船舶との間に差別を設けず一樣に航行税を徵收する。ドイツ政府は關係各國政府が、それ／＼自國領土内の内地水路を航行するドイツ船舶に對し同様の特權を賦與されることを希望する。」

さらにドイツ政府は、水路當局者をして隣接國の關係當局と協議せしめ共通の水路問題に對し情勢に適合した協定を締結する用意を有する。」

ヴェルサイユ條約は、第三百卅一條以下の規程において、エルベ、オーデル、ニーメン、ダニユープ、ライン等ドイツ國境乃至國內河川をもつて一律國際河川と指定して、これを國際的に開放し、スイス、チエコスロバキヤ等海港を有せざる諸國家に對し海面へ出入する便宜を供與する建前をとるとともに、國際委員會を設置して制度の運用を保證に當らしたのである。以上國際河

川に關する限り、ドイツ政府は主權の行使を停止されてゐたものであるが、今後は獨自の立場より河川行政に乗出すことゝなつたものである。この條項の廢棄は、ドイツが既にヴェルサイユ條約の賠償、軍事等の主要條項を廢棄した條約を事實上、空文に歸せしめた以上豫期されたものであつた。

ヴェルサイユ條約第百十五條には、ヘリゴランド島要塞禁止の條項が規定されてゐたが、ドイツ政府は、これをも破棄して、北海上に難攻不落の前哨基地を構築してゐる。

クラボン英外務次官もこの事實を下院に於て確認してゐながら、このヴェルサイユ條約の一方的廢棄に對しても何等強硬手段に訴へない意圖でゐる。

因にヘリゴランド島に關するヴェルサイユ條約第百十五條の正文は次の如きものであつた。

「ヘリゴランド島及びデューネ島の築城軍事建設物及び港は主たる同盟國政府の監視の下にその定むる期間内にドイツ國の勞力に依り且つドイツ國の費用を以てこれを破棄すべし、前記の築城軍事建設物及び港はこれを再構築すべからず又將來何等是に類する工作物を構築すべからず。」

◇ダンチヒ奪還

伊エ紛争で大味喰をつけた聯盟は、その改組問題の片づかぬ間に、再び難問題に直面しなければならぬことゝなつた。伊エ紛争ですつかり聯盟の足下を見透したナチ・ドイツは、ラインランド要塞の構築を進める一方、鉾を東に轉じてダンチヒ奪還を企圖するに至つた。

ジュネーヴで聯盟の諸代表を散々愚弄して、ダンチヒに歸還したダンチヒ自由市參議院議長で同地ナチスの領袖なるアルツール・グライザーは、彼を驛頭に迎へた數千の群集を前にして「重大決意斷行の時機近きにあり」と公言して、繼て參議院議員と協議して後、聯盟高級委員の存在を事實上無視する方針を決定して次の如く言明した。

「聯盟高級委員シーン・レスター氏が今後參議員は如何なる公文書を呈出しようとも之等書類は一切反故として取扱ひ同委員は何事を質問しようとも悉く沈黙を以て挨拶に代へよう。」

ダンチヒ自由市のナチスが、ヴェルサイユ條約第二百二條以下を蹂躪し、聯盟との關係を斷絶してドイツに合流せんとする實力行動を企圖したに對し、聯盟は實にその無力無能を暴露してしまつた。

ロカルノ條約の破棄。日本統治地は除いて、ニュージーランド、濠洲、イギリス等の委任統治下にある全舊ドイツ植民地の返還要求等。

躍進獨逸の方針は、常に膨脹してゆく國力に相應して、當然の天惠地利を求めんにあり、矛盾と障害の現支配家群に咆えついで、民族的統一國家を單位とする世界再改造の實踐にあるのである。

二、民族的統一國家の建設

鬱蒼たる森と泉のなから生れた強健なる獨逸民族は、中世紀においてすでに強力なる獨逸帝國を建設し、歐羅巴大陸に雄飛した。

しかるにその最初の帝國がナポレオンの鐵蹄に蹂み躪られ、四分五裂の狀態に陥るや、獨逸民族は再び大地を蹴つて奮起した。そしてフリードリツヒ大帝の遺策をつける大宰相ビスマークによつて、第二の獨逸帝國は出現した。

然るに世界大戰以來の獨逸の慘狀はどうであつたか。かつて大陸に羽翼を張つた大帝國の面影はどこにあるのだ。

「第三帝國の建設！」

それがヒットラーの志望である。そして全獨逸民族の目標でなくてはならぬ。かつて第一帝國の覆滅後、奮起して第二帝國を建設した獨逸民族がさらに捲土重來して第三帝國を建設しえない理由がどこにある？

而してヒットラーは、その第三帝國建設のために二十五綱領を定めて「不可變」とした。

一、我等は國家の民族自決權に基き全ての獨逸人を合一して大獨逸國の結成を要求する。

二、我等は他の諸國に對する獨逸民族の對等なる權利とヴェルサイユ條約、及びサン・ゼルマン條約の廢棄を要求する。

三、我等は我が民族の扶養、及び、過剩人口移住のために、國土及び領地（植民地）を要求する

四、國民たる者は、獨逸同胞に限る。信仰の何たるを問はず、獨逸民族の血統にあらざれば同胞たるを得ない。故に猶太人は全て同胞とはなり得ない。

等々であつた。そして最後に。

我等は、以上一切の實現のために、強力なる中央權力の建設を要求し、全國及びその全組織に對する中央政治議會の絶對的權威を要求する。我等は國家の發令せる規定を、各聯邦に實施せんが爲に身分別議院、及び職業別議院の開設を要求する。我黨の指導者は、必要なる場合は生命を

賭しても、以上の目的の達成のために、邁進することを誓ふものである。

しかしそのためには、次の原則を實行しなければならぬ。

先づ政治原則だ。獨逸は獨逸人の家である。家でなければならぬと云ふことである。そのためには先づ獨逸民族すべてを包括する「大獨逸國」を建設し、この國家は「力強く」諸外國に對立せねばならぬ。従つて獨逸國を小弱國化せんとする平和條約、それに伴ふ賠償義務は、拒否されねばならぬ。これはすでにほど解決がついた。しかし現在の獨逸國以外に、奧太利といふ獨逸民族の國家がある。チエツコにもゲンチツヒにも獨逸民族の家がある。ヒットラー最終の目標は勿論これとの大同合併である。其處に難かしい外交問題を孕んでゐる。

本年七月の十一日、オーストリー首相クルト・シュシュニツク博士は、全國民に對して、獨逸新協定の成立を聲明し、公式コミュニケを以てその内容を公表した。新協定に於て獨逸政府はオーストリーの主權を尊重し、兩國は互に相手國の内政に干渉せざる事を確認すると同時に、兩國は、「ゲルマン民族國家」として傳統的緊密關係を確立する旨闡明されてゐるが、特に伊奧洪三國の特殊關係を確立せる一九三四年の、ローマ議定並に一九三六年の修正議定書は新協定により

「何等影響を受くることなし」と明記されてゐる點は、將來獨塊協定を舊「三國同盟」に迄發展させ、更に進んでは北海より地中海に亘る全地域の提携を實現して、佛ソ相互條約に對抗せんとする意圖を示唆するものにして注目されてゐるのであるが。

ヒットラーにして健在たる限りは、必ず獨塊の關係はこのまゝにて留らず、獨塊合併に基く大獨逸國建設に向つての初志は、容易に捨てることの出来ないものであらうと信ぜられる。

機會だにあらば、勃然とこの運動は表面化するであらうし、したがつて獨塊を中心とし、更に獨太利の獨立をあくまでも維持せんとする伊太利との間の衝突等から、將來に残る陰翳が兆してゐるのを見られるのである。

兎もあれ、ヒットラー中央集權の確立は、一步一步と進められる。ザール歸屬問題、メーメル問題。ヒットラーは、その行動をもつて着々と民族的統一國家の建設を物語つてゆくのである。

三、宣戰、ボルシェヴィズム打倒

獨逸をして敗殘の慘狀にぶちのめしたのは、軍力が劣勢であつた爲ではない。戦地にあつては

立派に優勢をしめてゐたのだ。それなのに、共產主義の魔手が、内部から、革命によつて獨逸國內を攪亂してしまつたのだ。吾等の光榮ある祖國を建て直すためには、まづこの共產主義を一掃しなければならぬ。

これが對左翼ナチス闘争の心情であつた。血の争闘十數年、竟にヒットラーは、左派を撃滅して國內を統一した。しかし乍ら、其の後と雖もたへず侵入攪亂せんとするボルシエヴィキの陰謀を撃破しなければならぬ。また佛蘭西、西班牙に根據を置いて歐洲攪亂を策すコミンテルンの運動を根絶するに非ずんば、歐洲の保安は全う出来ない。獨逸は進んで、全歐洲の確保のためにボルシエヴィズム打倒の最前線に乗り出さねばならなくなつた。

ヒットラーは語るのである。

・「ドイツは隣接諸國にボルシエヴィズムの害毒が蔓延する事に無關心で居られない。余は陸海千五百萬の精兵が命令一下直ちに躍起する事を信じてゐる。而してひとたびドイツ人が起ち上れば世界空前の光景が展開され、モスクワ政府にとつて好ましからぬ事態が惹起せられるに至るだらう事を指摘して置き度い。或るものは、我々がボルシエヴィズ打倒に熱中してゐるのを見て、何故かくまで熱中してゐるのかと疑問を抱くかも知れないが、ドイツもイタリーも現在スペインで

起つてゐるやうな過程くわていを経て來たので、ボルシエヴィズムの害毒が如何に悲惨ひつぱんな結末をもたらすものであるかを身に泌みて經驗してゐるのである。故にドイツもイタリーも國家主義に立脚する國家に同情をよせ之らの諸國と交友關係を持続せんことを切望してゐる。今ヨーロッパの必要とするものは、組織の完全なる諸國間の交友關係いっかくくわんけい確立である。これによつてやがてボルシエヴィキの官僚主義の害毒はヨーロッパから一掃される日が来るであらう。

四、「反共」十字軍

「ドイツ國民は、赤色ユダヤ人や共產主義とは絶対に相容れない。ドイツ國民は同様どうようボルシエヴィズムの根絶に邁進するファシスト・イタリーその他の各國民に敬意を表明するが、結局歐洲のみでなく、全世界がボルシエヴィズムの脅威に直面してゐる現狀に於ては、ボルシエヴィズム打倒のため各國政府が共同戦線きょうどうせんせんを張らねばならぬだらう。何れにせよボルシエヴィズムは、ドイツ國の關門には、ドイツ國軍が待機してゐることを十分認識してもらひたい。

ヒットラー總統がそう叫んで、ボルシエヴィズムに對して宣戰したのをきつかけとして、歐洲

には反ボルシェヴィズム共同戦線強化の氣運が澎湃として起つて來た。先づこの點に於て注目すべきは、十月下旬ベルリンに於て成立した「防共獨伊協定」である。

これはイタリア外相チアノ伯のドイツ訪問の結果たる一般的獨伊諒解の一部面だが「反共」の至上命令にナチズムとファシズムが、「中歐の處女」オーストリアに關する相互の嫉視を一擲、茲に歴史的握手を遂げたことは寔に意義深いこと、言はねばならぬ。

ムツソリニが十一月二日ファシスト發祥地ミラノに於て行つた外交演說中右反共獨伊共同戦線確立を謳歌したのは言ふまでもない。

獨伊を盟主とする反共陣營の結成は、次いで十一月十二日ウィーンに於ける伊埃洪三國會議の重要議題となつて現はれた伊洪外相並に埃首相は三國の共同方針としての「反共」につき完全に意見の一致を見、先づ國內共產主義者の撲滅を約したのである。

かくて獨伊埃洪四國の「反共」合從陣は確立された。然らばかゝる共同戦線結成の動機は何か内亂を契機とするソ聯のスペイン進出がこれである。然し同時に忘れてならないのは、獨伊埃洪四國陣の結成は、既に滿身創痕のヴェルサイユ體制に對する弔鐘であるといふことだ。

歐洲の右翼政權は對外的には、ヴェルサイユ體制の「現狀」打開をスローガンとして興つた事

を考へれば不思議でない。ロカルノ、サンジェルマン、トリアノンの諸平和條約を完全に蹂躪しエチオピアを侵略した。獨逸洪伊國は「現状」を打破し、こゝに結盟して、ボルシエヴィズム、ソ聯打倒に乗出すことゝなつたのである。それは實に宿命的にさへ見える。

五、實益上から見た歐洲葛藤の内幕

ボルシエヴィズム打倒はまた多くの實利をさへともなつてゐる。

單に、ソ聯の歐洲擾亂を防ぐといふ消極的理由にとゞまらないで、そこには、もつと現實の利害に關係した積極的理由があるのである。はやく云へば、その方が、國力の發展進出の爲に尠なからざる實利をそなへてゐるからである。

ソ聯邦の對佛政策は、二面的な内容を持つてゐる。一はソヴェート政府の線に沿ふて、佛蘭西並にその指導下の小アンタントと結び、ナチス獨逸の包圍を一層強化する政策である。佛蘭西、ルーマニア、チエツコスロバキヤ、ユーゴスラヴィヤ等の相互不可侵條約乃至集團的不可侵條約の締結又完成には至らなかつたが、ソ佛のイニシアチヴになる東方ロカルノの提議、ソ聯の國

際聯盟加入、佛蘭西及びチエツコスロバキヤとの軍事同盟締結、ルーマニアを経てモスクワ、ブ
ラーグ間を結ぶ新航空路開通等はいづれもその目的に出たものであると見ることが出来る。又ソ
聯最近の親英外交も、極東に於ける日本牽制と共に、歐羅巴における獨逸牽制をその主要な目的
にもつてゐることは否定し得ない。

更にソ佛通商協定や、新關稅協定、目下進行を傳へられるソ聯の對佛長期商品借款計畫等、い
づれもソヴェート政府が眞正面から切つて出た外交政策の成果とみてよからう。

かくの如き情勢を、もしこのまゝに默過せんか、膨脹せんとする獨逸及び伊太利の進路は封じ
られてしまふことになる。

この脅威は、蘇佛の同盟及びスペイン人民戰線の成功によつて、いやが上にも激化せられたの
である。

その結果は、消極的に、階級的意識に目覺めた勞働者、農民を中心とする社會主義勢力に對し
て自國內に於ても獨裁政權の顛覆を目指す勞働運動の刺激が加へられないと豫斷できないのみな
らず實利的にみて、獨逸は、バルチック海沿岸制覇及びウクライナ進出等の、伊太利は、ドナウ
地帶確保及びバルカン進出等の將來性が無残にも破壊されてしまふこととなるのである。

否むしる積極的に、蘇佛の勢力を歐洲より絶滅して全歐の統一を圖ると共に進んでは、獨は、民族的統一國家の建設、バルチック海制覇、ウクライナ進出、ドナウ及びバルカンへの飛躍、失地回復、而してこの世界に亘る失地回復の爲の海軍根據地建設等を目論むのである。さればこそ堂々とボルシェヴィズム打倒を叫んで衆目を一齊にソ聯にそゝがしめておいてその脅威を宣傳しつつ、スペイン革命軍を援けて、飛行機をおくり、軍艦を派遣して、スペインを懐收し、人民戦線の歐洲横斷線を破壊して、モロツコ乃至はバレアリック諸島における土地主權の讓受を約定した。

獨逸は、ボルシェヴィズムの害惡を喧傳して、伊澳洪をも共同戦線に捲き込む事に成功したがそれは、伊太利にとつて云へば、やはり、スペインの革命を遂げしめて地中海制海權の確立、ソ佛勢力を驅逐して、ドナウ及びバルカンに於ける發展、更にアフリカ大陸への躍進等多くの實益があるからであつて、ソ聯と云ふ共同の敵に對して共同戦線をはつたこの兩大國は、その共同の敵の滅後において中歐に蟠まる利害の衝突といふ、陰翳が残されてゐることをどうすることも出来ないかも知れない。

兎もあれ現在、ソ聯といふ共同の敵手に對して、精神實益共に一致する獨伊兩國は、一目散

にボルシエヴィズム打倒に突進するであらう。

六、宿命的ユダヤ排撃

歐洲大戰、それはユダヤ人にとつては絶好の稼ぎどきであつた。むしろ歐洲大戰といふ大芝居をうつて獨り儲けをしたのがユダヤ人であると言はれてゐる。世界金融資本閥を一手に壟斷してゐるユダヤ人どもは、世界大戰を起させることによつて軍需工業を盛にし、それによつて益々その財腹をこやしていつた。幾千萬の血と骨の犠牲の上に貴き人命をしやぶつたものはかのユダヤ人であつたといふ事が出来よう。

當時の獨逸にある彼等は彼等一流の武器である財力を以て、或は言論機關を買収して、國民の統一を紊し、或は大學教授を買収して或は享樂機關を享有して、ドイツ魂に龜裂を生ぜしめ、或は政治家を買収して國策遂行を妨げるといふ有様であつた。

傷ついたヒットラーが一時國內に送りかへされた時伯林とミュンヘンでまのあたり見せつけられた光景は何であつたか。何處に行つても不満と怒罵の聲があつた。一般の氣分は、實に慘澹た

るものであつた。徴兵忌避が公然と行はれてゐた。戦線に立つ奴は、痴愚か、でなければ狂者とされてゐた。

政府の諸官衙は、すっかり猶太人に占領されてゐた。全ゆる事務官が猶太人で、全ゆる猶太人が事務官になつてゐた。ヒットラーは、猶太人のウヨ／＼してゐるのに吃驚した。祖國のために生命を賭して戦ふ戦場には、猶太人なんか殆んどゐなかつたのに。

銀行會社はもつとひどかつた。全ゆる生産機關は、猶太人の金融資本の管理に委ねられてゐた。獨逸人が祖國のために、必死の英雄的な戦ひを戦ひつゝあるとき、猶太人は銀行の帳簿の蔭にかくれて事實上の獨逸の支配者となつてゐた。

やがてユダヤ人は、獨逸國內のアリガネ悉くを持つて國外に逃亡した。國內はゴツタがへしたゼネストが勃發した。叛亂がはじまつた。革命だ。こうして獨逸は敗れた。

祖國を嘗するヒットラーの魂は、同時に悪奸ユダヤ人を膺懲すべしの関の聲である。この時から、ヒットラーのユダヤ排撃がはじまるのである。

ヒットラーの最も怖れるものは、ドイツ國民の民族的意識と愛國的熱誠を癱痺せしめてしまふ所のユダヤイズムの魔藥である。

先づ奸商ユダヤ人をはじめとして、これと相呼應する大學教授や政治家に對して荒療治を開始した。

次には、ユダヤ人に伸びるソ聯の魔手に對してゐあつた。完全なる祖國を有たない彼等にとつては、また完全なる祖國愛に乏しかつたのも當然であり、事實であつた。然し乍ら、ドイツ再興の大道を行く爲には、この當然も事實もそのまゝ許容する譯にはゆかなかつた。ユダヤ人の共產黨支持、これは事實にあまりにも判然と現はれて來たのだ。一九三二年七月の總選舉迄は、總議員數五百八十二名に對して約百名の共產黨議員が出、斷然たる勢力を張り、社會民主黨に次ぐ第二黨として存在してゐるのだ。これこそ斷崖に立つたドイツの憐れな姿であつた。こゝに於てヒットラー政權を握るや、國策上の荒療治が行はれたのである。

かくしてナチスのユグイズム排撃は、徹頭徹尾その外交方針の血脈に流れてゐるのである。

「一九三六年第八回ナチス黨大會は再びボルシェヴィズムと世界のユダヤ禍に對する果敢な闘争開始を宣言せざるを得ない。ソヴェート國政を支配する人物の八割九分は、ユダヤ人であり、主要外務使臣のうちロシア人八名、アルメニヤ人三名に對して、ユダヤ人は十六名に達してゐるが是等の使臣は睥睨するリトヴィノフ外務人民委員はワラツク・フィンケルスタインといふもの

示す通りユダヤ人である。

而も佛ソ兩國、チエツコ、ソヴエート兩國間の軍事同盟に想到せよ。今やソヴエート赤軍は全世界ユダヤ化の旗幟を掲げて兵力を倍加し、武裝せるプロレタリア、前科者群を第一線に据え、歐亞兩大陸の諸國を内外から脅威してゐる。世界文化の危機を前に、勇者は敢然起つて偉大な文明と平和とを擁護せねばならぬ。」

と、ローセンベルグは獅子吼し、

「今やユダヤ人は歐洲各國の文化を潰滅に導き國際ユダヤ帝國建設のためあらゆる手段と方法とを盡して畫策蠢動してゐる。」

ゲツベルスは、そう叫んで、ユダヤ撃滅を宣言した。

何れもこれ、ヒットラーの代辯である。

ロシアのロマノフ王朝を倒したケレンスキーも、續いて起つた共產革命の、レニン、トロツキーをはじめとして、ヨツフエ、カメネフ、コツプ、ガネツキー、リトヴィノフ、エムシヤーノフステクロフ、ジウイワイエフ、グリンケル、ポトウイスキー、カンシエンスキー等皆ユダヤ人である。滿洲事變當時の國際聯盟の役員の顔ぶれを見ても、事務總長ドラモンド(英國)事務次長ア

プノール(佛國) 交通部長ハース(佛國) 衛生部長ライヒマン(波國) 經濟部長ソルター(獨國)
 宣傳情報部長コンメン(獨國) 西班牙代表マグリアーガ(西國) 十九箇國委員會議長イーメン
 (白國) チエツク代表ベネシウ(チ國) 秘書官長レーゼー(佛國) 英國外相レーデング(英國)
 英國外相サイモン(英國) 上海工部局長フエツセンゼン(米國) 滿洲國調查委員長リットン卿等
 皆ユダヤ人であるが、その他數へ來れば實に驚くべき事實が數限り無くあるのである。

彼等は世界征服の手段に、資本主義と共產主義の二刀流戰術を用ひてゐるのである。

資本主義も社會主義も、彼等ユダヤ人の世界征服の手段であり方便なのである。

彼等は祖國を有しない。したがつて祖國愛を有しない。したがつて一方は、英國のロスチャイルド、米國のモルガンをはじめとして、一大財閥ブロックの經濟的世界支配の形態となり、一方は、ユダヤ人の國ソ聯、ブルム首相はじめ、ユダヤ人人民戰線の國佛蘭西をはじめとして共產主義的世界攪亂の企てとなり、ともに人類の鬭争化の桎梏として迫りつゝあるのである。

この時、ヒットラーは、祖國愛、精神主義的、道義統一國家を叫びつゝ、破壊的ユクヤイズムの爆撃に挺身してゐるのである。

七、新天地を求めゐる膨張の獨逸

獨逸は年々七十萬人づゝの人口増加じんこうぞうかを示してゐる。驚くべきこの膨張力ぼうちやうりきは何とかして獨逸の國土並びに資源の擴大を圖らねばならぬ。亦ナチスの躍進につれて獨逸の國力が充實して來た。ヒットラーに率ゐられる現在のドイツは、おしもおされもせぬ嚴然たる、

世界の大國となつてゐる興隆しゆく産業の原料げんりょうは何處から仰ぐか。ドイツの資源は何處にあるのか。しかも、ヒットラーは、陸海空軍の兵役期間を一ケ年延長し一律に二ケ年とする旨の緊急令を發して、ドイツの陸軍兵力だけでも百萬を數ふるに至り、

その上海軍の整備、空軍くうぐんの充實、實に夥だしき軍備ぐんぐだいの擴大である。これらの資元はどこに求めるのか。

獨逸は、運命的に、海外への發展並びに國土の擴大を斷行せねばならない必然性に迫られてゐる。

舊獨逸領植民地の返還へんくわんの要求が、英、佛、濠等に向つてなされることも、また必然さうぜんの消息さうしきと謂

はねばならない。

そしてこれを、どうしても英佛等の現状維持國派が、容認せざるを得なくなつて來るとせば、その時こそは、彼等が、津浪の様に押寄せて來る新興勢力を支へきれないで、屈服する時であるから、それを期して、伊の膨脹が決定的ゴールまで突進し、日本の使命的飛躍が全亞細亞の上に展開せられて、竟に世界地圖が新に描き替えられねばならなくなるであらうと確信する。

◇ウクライナ進撃と一蓮托生の隣接諸國

ウクライナ及び東方隣接國を求めてドイツの腕は當然東にのびねばならない。

ウクライナには、重要な穀庫があり、石炭・鐵・マンガンがあり、麥粉・砂糖があり、巨大な發電所や工場が此處に集中されてゐる。

その面積は四十五萬二千平方キロありその人口は三千二百萬もある。歐洲二流國家を優に凌駕する。物的資源をこのウクライナに眺めつゝこの元の特種關係地域にヒットラーが着目しない筈があらうか。

警戒の眼を光らしたるソ聯共產黨現在のウクライナ探題コシオールとポストロイシエフ肅正

に、^{サクレん}專念してゐるウクライナ共產黨機關及び政府機關要人等の監視^{かんし}にも拘らず、過去十數年を通じて陰に陽に幾度か各種各態の分離運動及び反ソ運動が起つて、ソ聯内諸共和國民族問題の最も八釜^{ヤス}しい所である所以である。

そしてウクライナ確保が實現する曉^{あけ}には、自然双方の交通が繁くなり、殊^{こと}に産業及び軍事上の連繫は、當然その間に挟まれる所のルーマニア、ポーランド、リトアニア、ラトヴィア、エストニア等をも一連托生ウクライナ運命を共にする事となつて來るのである。

獨逸は、果敢にウクライナ進撃^{しんげき}を開始するであらう。

◇バルチツク海沿岸制覇

獨逸が東方に於ける勢威^{せいゐ}を確保してその東方計略を遂げるためには、バルチツク海沿岸の制覇^{せいぱ}を緊急事とする。

ダンチヒ自由市の聯盟離背、メーメル問題の燃焼、風雲はバルチツク海の波を荒だつて來た。昨年六月十八日英獨間に海軍協定が成立^{せいりつ}し、この海軍協定によつてドイツはイギリス海軍の三割五分に等しい海軍を建造する權利を得たが、この三割五分は、イギリス本國の海洋に集中されて

ゐるイギリス海軍かいぐんと同等のものであり、ドイツ海軍を回復くわいふくするものであつた。

プロシヤには強力なる要塞を築造した。各所に地下格納庫をつくり多數の自動車道路を建造して東プロシヤ全體を「バルチック沿岸地帯に至るドイツの橋」となし、メーノル地方に於ては實權を掌握し、ラトヴィア、エストニアにおいてその少數民族やうたうみんぞくたるドイツ、ユンケルの手を通じて農業、商業、金融、産業に霸權を扶植して兩國のナチス化を圖り、今やその勢力は牢固たるものがある。

ドイツは、またスカンデナヴィア諸國しよこくとバルチック沿岸諸國との間に介在してソ聯の西北産業地帯と直接接境してゐるフィンランドの軍事的價值を高く評價してゐる。従つてその活動も主として軍事上の性質を帯びてゐる。フィンランド陸軍には多數のドイツ軍事教官が働いて居り、同陸軍の制服はドイツ陸軍のそれと髣髴ほうもつたるものがあり、兩國軍事要路の往復は頻繁ひんぱんであるといふ。それにフィンランドには數年以來大フィンランド運動なる思想運動が起つてゐるがこれはフィンランド人とその同族たるエストニア人及び匈牙利人をウラル民族であると稱し、ウラルまでフィンランドの國境こくきやうを延長することを理想とするものであると傳へられる。

かくの如くバルチック沿岸諸國におけるドイツの勢力は非常に大なるものがある。

また將來といへども益々強化してゆくであらう事は明らかである。

だからナチス領袖がニュールンベルグにおいてボルシェヴィズム禍を絶叫して對ソ十字軍の創設を呼號したとしても毫も、犬の遠吠えではないのである。

八、ドナウ及びバルカンに於て利害相反

する伊太利との關係をどうするか

十月下旬イタリー外相チアノ伯が、鳴り物入りでベルリンを訪問した。ナチス政府の首脳部とそこで會見した彼は、忽ち「意見の完全な一致」を見た。更に彼はベルヒテスガアデンの山莊にヒットラーを訪ひ、こゝでもまた黒色ファツシヨの代表者と褐色ファツシヨ首領とは「完全な諒解」を遂げた。

それから丁度一ヶ月目の十一月十九日にベルリンを訪れたオーストリー外相シュミツトは、ヒットラーはじめナチス外相ノイラートその他と會見の結果、獨逸兩國政府は、七月十一日の協定に基き通商文化の全領域に亘り緊密な協力を遂げることに意見の一致を見た。新聞電報は報じた。

この所獨伊を中軸とする中歐のフアツシヨ・ブロックはますます強化されてゆくかの觀を爲してゐるが、これは畢竟ヒットラーの對ソ方針を中心として防共十字軍の結成の動きである。ヒットラーの方針としては伊、塙、洪、西等その他の小國を糾合して一大反ソブロックを建設せんとするにあるが、これは今日の關する限りに於ては、確かに成功してゐる。しかし乍らこの成功してゐる所以は、伊、塙、洪等にしてもその方が實に莫大の利益があるからである。で、もし利害相反する部門の衝突が表面化した場合は、獨伊の關係は如何轉化し、中歐ブロックは如何なる局面を見せるであらうか。その際にヒットラーは何を叫び何に嚙みついてゆかうとしてゐるのであるか。

獨伊提携を通じてムツソリーニの望むところはさしあたりドナウへの進出である。ムツソリーニが軌旋して成立させた獨塙協定は要するにドナウからドイツを閉め出す工作に外ならない。ヒットラーをしてオーストリーから手をひかせて置いて伊塙洪を連ねる所謂ドナウ・ブロックを形成し政治的に經濟的にドナウ流域にイタリーの勢力を伸張させようといふのがムツソリーニの肚である。

またイタリーはソ聯との通商關係から多大の利益をうけてゐる。イタリーはエチオピア戦争か

らうけた劍痕に惱^{なや}んでゐる。イタリーは地中海を挟んでイギリスと尖銳^{せんえい}な對立をする。この對立は伊エ紛争によつて一層激化された。然るにドイツは新なるロカルノ體制を反ソ十字軍結成の礎石として、ロカルノ體制を築きあげることによつて西方に後顧の憂ひを絶つて、専らソ聯を正面の敵として所謂東方政策を政行したいのがその希望^{きぼう}であり、一方フランスを抑へるためにはイギリスと結ばなければならない。その懷刀のリッペントロツプを送つて英國を牽制してゐるのもその意圖のあらはれである。對ソ關係とは異つて、對英關係に於ては獨伊兩者の立場は一致を缺くの概がある。

そしてドナウに於てバルカンに於て兩者の利害は尖銳に對立してゐる。ナチ・ドイツは政治的經濟的目的から「バルカンの經濟開發」に懸命の努力を拂つてゐるし、今夏シャハトのバルカン訪問によつて原料輸入を中心とする。バルカン諸邦殊にルーマニアとの間に緊密な經濟關係が成立した。經濟的に政治的にバルカンに伸びんとするドイツが何時までドナウをイタリーの支配^{しはい}に委ねさせて置きうるか。

また多年バルカンへの進出を企圖して來たムツソリーニが果してドイツのバルカン進出を默過するや否や。獨伊兩國はバルカンに於ても亦對立を生む可能性^{かのうせい}が濃いのである。

然し乍ら、ヒットラーの東方政策及び、獨逸合併の「第三帝國」建設は、どうしても放棄されはしないだらう。先づ、反ソ十字軍の偉力を以て一段と高次の躍進をとげる獨逸は「防共」十字軍の役割が果されるその瞬間に、忽ちにその鎌首をもたげて宿望達成に最後の死闘を試みるであらう。

人民戦線じんみんせんを利用して共產革命をやりおほせようとするコミンテルンの運動の恰度ちやつどその逆を行きつゝあるのがヒットラー外交である。

ヒットラーのこの外交根本方針こそ洵にその國情、立場からして當然かくあるべきではなからうか。

九、東歐政策と獨蘇國境の嵐

ベルギー皇帝レオポルド三世が十月十四日の國務會議こくわいぎでベルギーの中立を宣言した。佛白軍事同盟の破棄は、佛國をして脅威と不安とに突きおとしたが、それに葡國のスペイン人民政府に對する國交斷絶、親獨伊提携及び獨伊壤洪の「防共」協定國と相俟つて佛蘭西を包圍し、これを沈

默せしめて一にソ聯に對抗^{たいかう}するのであるが、これ、かくしてひたすらに東方經營^{すひかう}を遂行せんとするヒットラーの猷立の實現にすぎないのである。觸手は更に、ルーマニヤ、ポーランド、フィンランド等にのびてゐる

驚くべき速度の急轉回を示しつゝヒットラー外交の發進^{はくしん}がつゞけられてゐる、

そしてそれが衝突した現段階の大詰の敵手はソ聯である。獨逸はボルシエヴィズムの打倒を叫んで世界をリードしたとも言へる。ヒットラーはコミンテルンの國家破壊、歐洲攪亂、世界赤化の罪狀を訴^{つた}へて巧みに自家の外交政策を着々と希望^{きぼう}通りに進めて行つたとも言へる。

ヒットラーが宣言する時、その時は既に實踐がはじまつてゐるときなのである。

大軍力を有するソ聯を呑んで、暗雲低迷の全歐洲を足下に踏まへてそして洋々たる世界の大舞臺を展望しては、その畫策をすゝめてゐるのがヒットラーである。彼の外交政策はその頭の中から湧いて出る。

獨逸人技手をスパイ行動のかどでソ聯政府が檢舉し、そしてこれを死刑に判決した。儲積してゐた獨ソ國交の惡化はその絶頂^{ぜつちやうてん}點に達した。ソ聯政府顛覆の大テロ陰謀^{いんぼうだん}團に、獨逸秘密警察がシユタボの荷擔をソ聯當局が發表し、ドイツ政府首腦部が口を描へて一齊にボルシエヴィズム打倒

の宣言をなし、スペインの革命をめぐつて共産政府軍を助けるソ聯と革命軍を援ける獨逸の間に砲火が交へられんとし、スペイン國內ソヴェート自治洲のバルセロナ港を中心として事態は切迫し、英艦隊の出動、獨逸海軍の遊戈、伊戰艦の配備、まさに地中海を中心として七十數隻艦艇が集結してゐる。

南は、バルカン・ウクライナから、北はバルチツク海沿岸諸國及びフィンランドに到る大前哨線が獨逸ソ聯兩軍の對峙の間に構成せられてゐる。ソ聯赤軍は、歐羅巴だけでもその正規兵として實に百六十萬の大軍隊を擁し、これらの正規兵は波蘭國境「ウクライナ」及び「ウラル」の眞中の沿「ウオルカ」軍管區に集中されてゐるのであるが、ソ聯兵備の最も特徴とする所の航空兵力機械化兵力及び化學戰裝備にあつて、飛行機四千臺、戰車四千臺をはじめとして戰車自動車編合の機械化部隊は大小合計十數師團に及んでゐる。

革命軍事會議に化學戰部を置き、また化學戰特別研究委員會を設け、研究常備部隊としては化學聯隊化學獨立大隊がある。

實に年額百五十億^{ルブル}留^{ルブル}の軍事費が赤軍の大威力を裝填してちつとして機をうかゞつてゐるのである。

戦争は則ち氣合である。何がきつかけとなつて發砲・前進・總攻撃と展開して來るかは全く豫斷出來ない所にまた危險性が包藏されるのである。しかし乍ら

外交の妙諦は、戦争することにあるのではない。いかに戰禍を尠くしてそして自國の主張を如何に最大有効に成就せしめるかにあるのである。

故にヒツラー外交の精神も徒らに戦争のみをあせつてゐるのではなくして、ボルシェヴィズムといふ破壊思想撲滅の旗幟の下に、強大なる「防共」十字軍を結成して、以つて實利的にソ聯の侵略攪亂を防ぐとともにソ聯共產帝國主義を撃退しつゝそこに獨逸の種子を播いてゆかうとする策略にあるのである。故に一面から云へば、あの爆彈的宣言も強大反共ブロックの擴大も、その威力を以つてソ聯赤軍をへこまし以て戦争に替へようとする思策が、ヒツトラーの本意であらうとも考へられる。

が本意が如何にあらうとも、點火し易い爆發物が、強烈な熱度の下に二つ並べられてあるときいつそれが引火して火花を散らさないとも限らないではないか。戰機はほんとうにものゝはすみである。

人類はたゞ固唾をのんでみまもつてゐる。

一〇、亞細亞に對するヒットラーの

方針と「日獨協定」の成立

ヒットラーが現在亞細亞に求めるものとせばそれは、特殊利權や地域を中心としての葛藤ではなくして、共に手を携へて共同目的の爲に進み度いと考へる友邦である。

若しかりに獨逸が、英ソ佛等と同様に亞細亞に割込んで權益を確保せんとするとしても、それは現在の獨逸の國情が許さない。また維持する事も不可能であらう。それに、英ソ佛等の不當支配現狀維持群に向つて民族的生命發展の必然性から現狀打破の急先鋒として起ち上つた獨逸がやはり、英ソ佛米等の不當壓迫侵略諸國に對して現狀打破を叫ぶ亞細亞に、從來の壓迫同様に侵入するといふ矛盾に陷る。剩へ亞細亞に於けるせつかくの友邦を失ふことになる。これは、賢明なるヒットラーのどうしても採らざる所であらう。

殊に現在^{ゲゲ}は、コミンテルン活動を抑壓しつつ、反共々同戰線を擴大してソ聯を退かせながらそこへ自國の躍進を遂げようと企圖してゐるヒットラーであるから、そのソ聯を更に亞細亞の側か

ら牽制するものがあれば、したがつて獨逸の東歐政策が有利に展開する譯であつて、實にこれこそ獨逸の希望である。

そこでこの熱烈なるヒットラーの思ひは、同じく亞細亞擾亂といふ怖るべきソ聯帝國主義の侵入の新威下に置かれてゐる日本に通じないわけはない。日本もまた、あのボルシェヴィズムのソ聯を歐洲側から牽制するものがあれば、亞細亞平和の建設をめざして日滿蒙支間の親密を深めて大陸政策に乗出すことが出来るし、ひいては、印度、シベリヤ、海峽植民地、南洋等の問題も再び考慮して、狀態に置かれて來るのである。また當面の問題として、いま紛淆中の中華の抗日暴動も、それをしてそうせしめる所のソ聯コミンテルンの抗日統一戰線運動、支那赤化直接行動のあることを思ふとき、更に、ソ支兩軍の蒙古壓迫と蒙古今日の獨立戰爭を考へるとき、ひいては、滿洲國內の破壊擾亂に暗躍する赤化分子、共產匪賊、ウラヂオの大防塞大軍備大空軍、黑龍江沿岸地方のユダヤ州設置、日本國內の共產主義密偵群の跳梁等を思ふとき、いま直面する日支問題の解決亞細亞の保安の爲にも日本は進んで局面の轉換を圖らねばならない必要を痛感した。

ヒットラーの外交政策と日本の主張とは、かくして合致して「日獨協定」がうまれたのだ。コミンテルンの脅威に對する共同防衛上必要の勢ひとして生れ出でた「共產インクーナシヨナ

ルに對する協定」である。

「大日本帝國政府及獨逸國政府は、共產インターナショナル（所謂コミンテルン）の目的がその執り得る凡ゆる手段による現存國家の破壊及暴壓にあることを認め、共產インターナショナルの諸國の國內關係に對する干涉を看過することは、其の國內の安寧及社會の福祉を危殆ならしむるのみならず、世界平和全般を脅やかすものなることを確信し、共產主義的破壊に對する防衛の爲協力せんことを欲し左の通り協定したのである。」

第一條 締約國は、共產インターナショナルの活動に付相互に通報し、必要なる防衛措置に付協議し且緊密なる協力に依り右の措置を達成することを約す。

第二條 締約國は共產インターナショナルの破壊工作によりて國內の安寧を脅やかさるゝ第三國に對し本協定の趣旨に依る防衛措置を執り又は本協定に参加せんことを共同に勧誘すべし。

第三條 本協定は日本語及獨逸語の本文を以て正文とす。本協定は署名の日より實施せらるべく且つ五年間效力を有す締約國は右期間滿了前適當の時期に於て爾後に於ける兩國協力の態様に付諒解を遂ぐべし。

右證據として下名は各本國政府より正當の委任を受け本協定に署名調印せり。

昭和十一年十一月二十五日即ち千九百三十六年十一月二十五日ベルリンに於て本書二通を作成す。」

日獨の提携はまた同時に日滿獨の協定と同じことである。

更に伊太利が日獨協定に對して、

「新協定には第三國の參加出来る仕組と解されるが既にイタリー政府はドイツ政府と反共協定を締結してゐるから第三國は必ずしもイタリー政府を意味してゐない」と

と發表したのをみれば、伊太利もまた共同協力の勞をとらんとするわけである。

コミンテルンをめぐつて日滿獨伊塹洪、西、それに支那の關係にある小國群を加へて大部隊編成がなつた。ヒットラーはまたよき劇作家でもある。

ヒットラーは勿論外交政策として獨逸の實利的膨脹を考へるであらう。然し乍らそれは彼の全部ではない。ヒットラーは、一身を挺して祖國愛のためにボルシェヴィズ及びユグヤイズムの破壊思想と闘つて來た精神家である。彼の胸には、愛が燃え血汐がたぎつてそしてそれが肉を躍らしてゐるのである。そこにヒットラーの面目があり頼もしさがあり、それがまた單なる征服主義と異なる彼の外交政策の基調をなしてゐるのである。

われ／＼は、道義的世界平和の建設けんせつに向つて正しく強く進すすまねばならない。

これこそまさにこゝに誕生した日獨協定の進路でもあるべしと信念し希望するものである。

(完)

昭和十一年十二月九日 印刷
昭和十一年十二月十二日 發行

有 所 經 販

〔特約〕 東京鐵道局公認 (鐵道保養會・鐵道弘濟會・鐵道授産會)

ヒットラーの新外交政策

定價 十 錢
(送料二錢)

著 者

清 川 逸 郎

發 行 者

東京市麹町區有樂町二ノ二
森 田 益 雄

印 刷 者

東京市芝罘新橋三ノ二〇
荻 四 郎

發 行 所

東京市麹町區有樂町二ノ二
森 田 書 房

全國配給所

月刊「話の王國」
雜誌「旅行春秋」
「オールユーモア」
「旅行春秋」
「喫茶街」
發行

電話銀座(五)二五二三番
振替東京一一九一一七番

北部配給所

新潟縣三條市田島三三四
森田書房北部支店

京阪神特約店

大阪市北區東梅田町六
大阪參文社

森田書房刊行書目

冊子即賣
著及會

| | |
|------------------------------|-----|
| 谷孫六著 世渡り秘訣百ヶ條 | 價一〇 |
| 谷孫大著 へそくり問答 | 價一〇 |
| 高島素之著 人は何故に貧乏するか | 價一〇 |
| 高島素之著 あばたはるくぼ? | 價一〇 |
| 高島素之著 異國の横顔 | 價一〇 |
| 玉樹原著 姓名で結婚運がわかる | 價一〇 |
| 玉樹原著 人生の三大急所 | 價一〇 |
| 渡邊玄著 商店經營問答 | 價一〇 |
| 佐藤石著 釣の手引 | 價一〇 |
| 北三二著 諸居の雛形 | 價一〇 |
| 日本料理研究會編 人は職業で適食が違ふ 貴方の適食は何か | 價一〇 |
| 高島素之著 人を説く秘訣百ヶ條 | 價一〇 |
| 山田林著 失意のとき 心構へを禪に訊く | 價一〇 |
| 新開社編 何が私を不良にしたか | 價一〇 |
| 新開社編 職業婦人を女房にもてば | 價一〇 |
| 谷孫六著 孫子の戦法 | 價一〇 |

| | |
|----------------------|-----|
| 谷孫六著 孟子の說法 | 價一〇 |
| 永松造石 エチオピア皇帝とムツソリニ | 價一〇 |
| 美山郎著 犯罪者の心理と手口 | 價一〇 |
| 讀賣新聞編 高梁の飲 | 價一〇 |
| 讀賣新聞編 滿洲秘話 匪賊物語 | 價一〇 |
| 新開社編 男性への抗議・女性への反駁 | 價一〇 |
| 中木郎編 歐阿の戦雲は 日本に何う響くか | 價一〇 |
| 楠波一著 馬の見方と穴の狙ひ所 | 價一〇 |
| 天草郎著 正力松太郎と小林一三 | 價一〇 |
| 讀賣新聞編 東京巨人軍の陣容 | 價一〇 |
| 芳雄著 品物の買ひ方賣り方 | 價一〇 |
| 玉樹原著 略血八年の私か | 價一〇 |
| 辰雄著 健康を勝ち得るまで | 價一〇 |
| 昔々著 微笑・苦笑・爆笑 新作落語集 | 價一〇 |
| 桃輔著 微笑・苦笑・爆笑 新作落語集 | 價一〇 |
| 谷孫六著 ガンバリズム | 價一〇 |
| 谷孫六著 世渡り川柳なる程草紙 | 價一〇 |
| 谷孫六著 生きた富豪術 | 價一〇 |
| 玉樹原著 昭和十一年版 開運の秘訣 | 價一〇 |

森田書房刊行書目

冊子即賣
會及普

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------|------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| 新開社編 ネオンサインで男を見れば 價一〇 送二〇 | 楠波一著 競馬必勝此の手以外なし 價二〇 送二〇 | 黒鳥三著 大本教の本體を暴露す 價一〇 送二〇 | 佐々木雄著 一九三六年を何う暮すか 價一〇 送二〇 | 楠波一著 競馬必勝此の手以外なし 價三〇 送二〇 | 馬場二著 相場は度胸か戦術か 價二〇 送二〇 | 島影盟著 靈魂物語死んだら何うなる 價一〇 送二〇 | 天草八郎著 現代六人男 價一〇 送二〇 | 島影盟著 邪教・妖術を裸體にする 價一〇 送二〇 | 小松彦著 政界第一線に立つ人々 價一〇 送二〇 | 堀之助著 人に好かれる急所 價一〇 送二〇 | アザブ著 新作萬歳集 價一〇 送二〇 | 島影盟譯 滿蒙奥地探險の手記 價一〇 送二〇 | 木戸勝著 競馬無手勝流 價二〇 送二〇 | 天草八郎著 二・二六事變の全貌 價一〇 送二〇 | 永松造著 人間・廣田弘毅 價一〇 送二〇 |
| ベールス編 全日本職業野球團の陣容 價一〇 送二〇 | 讀賣新聞 六・六學野球部の陣容 價一〇 送二〇 | 競馬新聞 中山競馬特輯號 價二〇 送二〇 | 競馬新聞 東京競馬特輯號 價二〇 送二〇 | 難波一著 これからの財産株とその買ひ方 價一〇 送二〇 | 天草八郎著 二・二六事件の秘話 價一〇 送二〇 | 横原玉葉著 出直せ！身と心の置き所 價一〇 送二〇 | 千田理造著 歴代内閣一九二大臣 價一〇 送二〇 | 競馬新聞 根岸競馬特輯號 價一〇 送二〇 | 生方敏郎著 不景氣を笑ふ話 價一〇 送二〇 | 千田理造著 これからも株で儲かるか 價一〇 送二〇 | 永松造著 超非常時を背負つて立つ人々 價一〇 送二〇 | 講談社 黒人帝國の崩壊 價一〇 送二〇 | 講談社 魔の手は延びる 價一〇 送二〇 | 河野嘉壽著 絶對正(神々全體)壹力 價一〇 送二〇 | 海保徳著 新日本に與ふ大西郷の精神 價一〇 送二〇 |

○既刊書御注文は、すべて前金にて御願ひ致します。御申込は當書房又は最寄賣店へ。
送金は振替又は郵便切手のこと。

| | | |
|-------|--------------------------------------|--------|
| 大黒鳥三者 | 世界の秘密結社を探る | 價一〇送二〇 |
| 谷孫六著 | 金作りの秘訣百ヶ條 | 價一〇送二〇 |
| 谷孫六著 | 孟子の説法(世渡り急所の巻) | 價一〇送二〇 |
| 難波人著 | 花形株の動向打診 | 價一〇送二〇 |
| 千田造著 | 證券相場の見透し | 價一〇送二〇 |
| 理示造著 | 證券相場の見透し | 價一〇送二〇 |
| 國語編 | お定事件の真相 | 價一〇送二〇 |
| 御手洗著 | 恐る可き赤軍の威力 | 價一〇送二〇 |
| 新聞社編 | 罪を裁かれる人々 | 價一〇送二〇 |
| 千田造著 | 明治・大正・昭和事變、事件史 | 價一〇送二〇 |
| 成男著 | オリムピック早わかり (陸上・水上豫想) | 價一〇送二〇 |
| ベースボ | 全日本選手權大會豫想 | 價一〇送二〇 |
| 小笠原著 | 「實話」無人島漂流奇譚 | 價一〇送二〇 |
| 溝口著 | 近衛文麿公を語る | 價一〇送二〇 |
| 直樹著 | 王二・二六事變の斷罪 | 價一〇送二〇 |
| 白須賀著 | 魔都『上海』の戦慄 | 價一〇送二〇 |
| 八木脩著 | 映畫界の裏面 | 價一〇送二〇 |
| 鳥影盟著 | 山の不思議・海の怪異 | 價一〇送二〇 |
| 孝藏著 | 轉向のソヴェート | 價一〇送二〇 |
| 難波人著 | 持株を處分する急所 | 價一〇送二〇 |
| 讀賣新報 | ふたりは若アーイ (苦き日の思ひ出話) | 價一〇送二〇 |
| 千田造著 | 明治八年女 | 價一〇送二〇 |
| 事業と會社 | 三年で五倍になる株式種の研究 | 價一〇送二〇 |
| 千田造著 | 博士物語 | 價一〇送二〇 |
| ベースボ | 全國中等學校野球大會 | 價一〇送二〇 |
| 新富成男著 | 昇給の要訣五十ヶ條 | 價一〇送二〇 |
| 大原雄著 | 日本を荒すスパイ群 | 價一〇送二〇 |
| 千田造著 | 明治・大正政變秘話 | 價一〇送二〇 |
| 鈴木日出版 | スペインの動亂と歐洲の危機 | 價一〇送二〇 |
| 片山隆著 | 獨裁三人男 (その後のヒットラー) (將介石・ムッソリーニ) | 價一〇送二〇 |
| ベースボ | 秋季六大學リーグ戰試合豫想 | 價一〇送二〇 |
| 千田造著 | 明治の三大政治家 伊藤・大隈・山縣を語る | 價一〇送二〇 |
| 大黒鳥三者 | 支那抗日團と藍衣社の正體 | 價一〇送二〇 |

森田書房刊行書目

冊子即賣
及普會

| | | |
|-------------------------------|-----|----|
| 鈴木著 支那に揚る對日宣戰の叫び | 價一〇 | 送二 |
| 事業と會社 新東相場は今後も株界指標として役立つか | 價一〇 | 送二 |
| 研究所編 波人著 何うすれば株で儲るか | 價一〇 | 送二 |
| 鈴木著 暴戾なる支那斷乎膺懲すべし | 價一〇 | 送二 |
| 日川輔著 今秋の穴馬はこれだ! | 價二〇 | 送二 |
| 木戸勝著 孝彰著 戦争と宣傳の戰慄 | 價二〇 | 送二 |
| 鳥影盟著 怪教「ひとのみち」を裁く | 價一〇 | 送二 |
| ベースボ 早慶・早明戰の試合豫想 | 價一〇 | 送二 |
| 千田理示造 何故成功したか、何故失敗したか | 價一〇 | 送二 |
| 藤川著 邪教はいかに瞞したか | 價一〇 | 送二 |
| 京介著 日本・人民戰線の正體 | 價一〇 | 送二 |
| 鈴木著 主要會社の増税負擔額 | 價一〇 | 送二 |
| 事業と會社 研究所編 忍田著 何うすれば小賣商は繁榮するか | 價一〇 | 送二 |
| 山三著 鈴木著 馬場鏝一と寺内壽一 | 價一〇 | 送二 |
| 千田著 處生訓・修養訓・讀書訓 | 價一〇 | 送二 |
| 理示造 競馬と相場は方位で勝てる | 價一〇 | 送二 |
| 横原運命 研究所編 | 價一〇 | 送二 |

| | | |
|-------------------------|-----|----|
| 黒鳥著 謎の天理教を扶る | 價一〇 | 送二 |
| 大田理示造 新常識讀本 | 價一〇 | 送二 |
| 事業と會社 研究所編 増税とこれからの景氣 | 價一〇 | 送二 |
| 櫻井著 誰にも解る人相の見方 | 價一〇 | 送二 |
| 大路著 スペインの革命と全歐州の波瀾 | 價一〇 | 送二 |
| 鈴木著 忠一補修 東京競馬の穴馬はこれだ | 價一〇 | 送二 |
| 日川輔著 千田理示造 明治・大正・昭和火災獄史 | 價一〇 | 送二 |
| 鈴木著 日獨協定と各國の動向 | 價一〇 | 送二 |

◎既刊書御注文は、すべて前金にて御願ひ致します。御申込は當書房又は最寄賣店へ。
送金は振替又は郵便切手(二錢切手使用)のこと。

鈴木日出輔著

定價十錢（送二錢）

日獨協定と各國の動向

西に東に、全世界を脅かす赤魔に抗して日獨防共協定は結ばれて、歴史はこゝに新しい方向に進み始めた。

日獨協定の全貌を明らかにし、併せて世界各國の動きを簡明に描く、國際新情勢は此の一冊でよく解る。

森田書房版

櫻井大路著

定價十錢（送二錢）

誰にも解る人相の見方

「相は心を追ふで生ず」ものであつて、心は必らず顔に現れるものである。それと同時にその人の持つ運命、消長も讀むことが出来る。こうした見方を一般大衆に知らしめる爲め、平易に圖解説明した至寶の書であつて、著者は斯界の第一人者である。

森田書房版

内容純粋度

娯楽 68%

修養 12%

實用 20%

誌様のもみよ新

話

定 價 十 銭

全国各販賣店・書店・驛本
ーム新聞スタンドに在リ

誌様のもみよ新

の

誌様のもみよ新

王

斷然面白い!!
だからよく賣れる
だから廣く賣れる
だから直ぐ賣切れる
今月こそお買漏れの
ないやうに!!

誌様のもみよ新

國

所 行 發
房 書 田 森 社 國 王 の 話

二ノ二町樂有區町錫市京東
番五五六八一—京東錫振

喫茶街

喫茶店の界の探照燈・
 喫茶店の中心とたし・
 レコド流行動讀物・
 ————— 雑誌の
 喫茶店の讀必ンア雑誌

有名人書店に發賣
 寄賣店・驛ホーム

發行所

話の國王社森田書房

東京市麹町區樂二ノ二
 振替東京——八五六五番

20セ

誌雜のい笑は鮮新

アモーユルーオ

— 錢十價定 —

| | | | | | | | | |
|-------------------|--------------|-------------|--------------|-------------------|--------------------------------------|--------------|-------------|--------------|
| セナ ン ス ン | 漫新 作 漫 | 新 作 落 | モユ ア 講 | セナ ン ス ン | ユ ー モ ア ・ コ ン ト | モユ ア 實 | 喜 ア 小 | モユ ア 説 |
| 漫 | 談 | 書 | 語 | 談 | 物 | 話 | 劇 | 説 |

載滿物讀アモーユ他其一

全國諸賣店・有名
書店に在り・品切
れの節は本批へ!!

二 送
錢 料

所 行 發

二ノ二町樂有區町麴市京東

社 國 王 の 話

東京市内で一番よく賣れる

讀賣新聞

朝刊二十頁
夕刊八頁

東京座銀
讀賣新聞社